

低脳兒教育に就いて

醫學博士 三宅 鑛 一(談)

低脳兒の教育といふものは、中々注意すべき事でありまして、今迄でも多くの人々に依つて研究されて居ります、が學校にある兒童の中にも、どうも普通の子供と一緒にしてゐては、教育もし難いといふのが、澤山あるのです。これは、所謂低脳兒でありますので、特別な教育を施さなくてはならぬのであります。ところが、親達は、自分の子供が低脳兒だといふ事を非常にはぢて、もし先生等がこんな注意でもしようものなら、非常に憤る人があります。これは非常な間違ひでありまして、低脳兒であつたならば、かくすどころか、色々の手段をつくして、少しでも善く導いてやることにせねばなりません。

市社會局では、この十月から、東京市内の各區に一つ、低脳兒に特別な設置をした學校を設けることになりました。そして幼稚園や小學校に於て、先生が學業其他を見て低脳兒ときめ、又校醫が身體検査

して異常であることを認め、其の上に心理學者がテストをしていよく低脳兒と定まりましたならば、低脳兒特別の教育を施すことにいたします。先づ收容する兒童は、低脳程度の強いものから、又年齢の少いものから、することに致します。

然しながら、低脳兒と申しましても、その程度によつて色々異つて居ります。學科の時間割を製作することは非常に困難であります。單に、普通の子供よりは少し頭の働きがにぶく、父兄又は教師が注意して指導すれば普通の兒童と同じやうに進んでゆくのもあります。また如何に努力してやつても、どういふ救ふべからざるものもあります。低脳兒の教育に於ては材料や方法を研究することが特に必要であります。

低脳兒教育の如きは早い時期から始めればそれだけ效が多く、小學校よりはむしろ幼稚園時代から、三四歳頃から始めれば尙更よろしいのであります。

それ故に 幼稚園の先生方はよく注意して、低脳兒を早く知るやうにせねばなりません。

低脳兒はどんな傾向をもつて居るでありませんか、一言話して見ませう。低脳兒は子供の時から發育がわるいのであります。握る力が弱かつたり、言葉の發音が容易に出来なかつたり、赤んぼは人の云ふ事は了解するものであるのに、生後一ヶ月以上立つても少しもさういふ傾向がなかつたり、又生後十四ヶ月以上も立てば言語を發するのであります、それがいつまでも言語が不充分でありましたりするは、低脳兒になる證據であります。いつまで立つても、歩行が充分でなかつたり、指先がにぶくて働きがなかつたり、模倣慾が出来るのにそれがなかつたり、小便を時々そそうするとか、四五歳になつてカ行やサ行の發音が出来なかつたり、注意力がにぶくあつたり、わるく剛情をはつたり、或はひつこみ思案になつたり、他の子供と遊ばなかつたりするのもその特長の一つであります。

又、よく子供の様にひきつける事を度々するのがあります、「ひきつけ」は腦の薄弱な證據であります。又、非常に神經質であつたり、小心であつたり、

臆病であつたりするのもそれでありました。又、好き嫌ひがはなはだしくありましたり、夜は安眠することなく、眠りついたと思ふと、何かに驚かされたやうにぱつと飛び起きたり、又、物を少し餘計に食べると下痢をしたり、嘔吐を催したりします。

これ等の細い一つ／＼の傾向が、もし小兒にあらはれておましたら、母親や幼兒の教育に従事する人々は、大いに注意して置かなければなりません。

低脳兒は保母や守がよく注意せねば、早熟してしまつたり、感情教育が充分でなかつた爲に、粗暴になつてしまつたりします。又身體の方でも極めて細い注意を以て、育てあげなければなりません。

低脳兒といふものは、子供自身の將來の不幸は云ふまでもなく、その父母の悲しみは何とも察することが出来難いものでありますから、低脳兒でも出来るだけの事は工夫してやつて、より善くすることに努めてやるべきが、人間としての同情であります。

低脳兒教育も我國では近頃盛んになりましたばかりで、外國などと比べましては、まだ／＼遠ひことでありますから、社會の人々も共に協力して、新しい設備を施すことを望みます。この點に於て、今度市社會局で始めた低脳兒學校の如き、心から喜んで居るのであります。(文責在記者)